

井出留美様

2025 年 4 月 14 日

月刊『潮』3月号「わが家の台所から始める気候変動対策」

「読者の声」

下記に、月刊『潮』3月号の「読者の声」でいただいた感想を掲載いたします。ご査収くださいますようよろしくお願いいたします。

- 先日、スーパーに大根と白菜を買いに行ったところ、大根は3分割、白菜に至っては1/8分割になって並んでいた。気候変動による影響も多分にあるかもしれないが、購入にためらいがあった。2日後、同じ店頭に立って見たら、白菜がしおれて別売りとなっていた。買い物かごに入ることなく売れ残ることとなっていた。私は“食品ロス”の削減の取り組みのあり方を考えさせられる思いがした。
- 食品ロスが日本で4兆円にもなる。一世帯あたり72000円とは驚きです。野菜は皮まで使い切る。肉野菜も小分けに、冷凍して使うという工夫をしています。分別を心がけ、雑誌は不要の紙袋にためてリサイクル。燃えるゴミは週1回だけ出すようになりました。
- 井出留美さんのわが家の台所から始める気候変動対策を読み、食品ロスの削減は経済や社会にメリットがあることを知り、冷蔵庫の整理、常温保存ができる食品の備蓄、買いすぎない等々改めて実践すると決め、記事を友人とともに語り合いました。
- 3月号特集「分岐点に立つ人類」でわが家の台所から始める気候変動対策に、心から共感です。昨夏の猛暑、今冬の大雪等、自然の驚異を感じる。井出留美さんの食品ロス削減は、貧困などの課題にも通じる、との見解に納得。もう一度生活を見直そうと思う。「ロスしたら損、削減したら得」のことばを肝に銘じて。
- 異常気象から世界的にも災害が多く発生している。それに反対側では戦争が続き、毎日のように尊い命が奪われてゆく。せめて人間が自ら起こしている戦争だけは無くなってほしいと思う。生を受け1度きりの人生を大切に生きてほしいし、民族が手をつなぎ、助け合っていける時代が来ることを願ってやみません。
- 人類の危機が叫ばれて久しい。本当に“今”が大事であることを皆が自覚をしなければ……。

- 昨年 3 月に未来アクションフェスに主人と参加。私達一人一人出来ることを考え実行していくことが急務。各家庭で分別ごみを出すことや、新聞雑誌分別等々。カンもアルミとスチール分別一人一人の努力が不可欠です。出来る限り食品ロスを出さないことも大事。未来の方に地球を遺すことが“カギ”だと考えています。
- 「わが家の台所から始める気候変動対策」を読みました。食品ロスの影響は環境・経済・社会にとありました。冷蔵庫の容量は 50～70%に。備蓄をする時は常温保存できる物、缶詰がよい。備蓄はこまめに使いながら、買い足す「ローリングストック」が実用的。買い物はメモをしてから行く。空腹のときは買い物に行かない。特に、ここが一番心にひびきました。
- 食品ロスによる日本の経済損失は 4 兆円。一般家庭に換算すると一世帯あたり、72000 円！衝撃だ。また、生ごみの 80%は水分だという。わが家も真剣に向き合わねば。進化した生ごみ処理機の購入を検討中である。
- 食品ロスを減らしたり、生ごみの処理を工夫したりすることで、こんなに効果があるのかと驚きました。以前、生ごみに EM 菌のぼかしをかけて堆肥にすることを知り、やったことはありますが。小さな努力でも気候変動対策になるのなら、やっていきたいです。
- 井出留美さんの記事をととても興味深く読ませていただきました。地球温暖化による気候変動に、自分は何ができるのかと思っていました。自分の台所で出る生ごみと向き合うことで温暖化に少しでも貢献できることを知り、実行していきたいと思います。

以上が、はがきで読者から送っていただきました「読者の声」でございます。

その他にも、読者カードを送っていただいた読者のうち、100 名を超える読者から「とくに興味深かった記事 3 選」に選ばれておりました。掲載記事が多い中で、これだけの方に「興味深かった記事」に選ばれていることは、記事に対する読者の反響も特に大きかったのではないかと感じております。

編集にご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後とも、何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社潮出版社
月刊『潮』編集部
担当者